

プロジェクト名： 茨木みずとわプロジェクトー持続可能な食を考えるー

5名

□その他(

<活動のテーマと主な内容>

持続可能な「食」を考え、できることを実践する。

気候変動や化学肥料や石油資源の高騰で、日本も「いよいよ食糧危機に突入した」と言われますが、私たちは地域の資源を循環させ、気候変動や世界情勢が不安定な状況化でも、「食べ物をつくる」技術と知恵を積み重ねてきました。食品廃棄物を飼料にし、平飼いで循環型養鶏を営む「清阪terrace」、江戸時代の伝統農法を全国で唯一継承し、三島独活(みしまうど)を栽培する「千提寺farm.」など試行錯誤しながら、持続可能な「食」をつくる、農家をお手伝いいただきます。また、学生の皆さんと一緒に持続可能な「食」を考えた「食卓」を一緒に囲む機会を持ちます。学生の皆さんと日々の暮らしで工夫できることを共有します。昨年は鶏を絞めて、捌き、雑草を使って、料理をしました。

希望者には、様々な知恵と背景を持った面白い大人たちが集まり、共にまちづくりに取り組む拠点「にんげん小屋みずとわ」での活動にも参画いただきます。地域で使われていないもの、注目されていないもの、捨てられているものを知恵で「価値あるもの」に変えたり、「自分たちでつくること」で、関わる人たちが、優しくなれる場をつくっています。

本授業を受講した先輩たちも、イベントを企画したり、商品開発をしたり、主体的に関わってくれています。

<活動する現場で学生が求められる背景(理由)>

学生を求めているというよりも、地域で活動する仲間を求めています。授業をきっかけに、地域に積極的に通い、自らイベントや援農を企画したり、にんげん小屋で出会った人たちと共に活動し、地域のプレーヤーになってくれた学生たちから私たちもたくさんのギフトをいただいています。

また様々な背景、年代の人たちが共に活動することで得られる発見や、感動には言葉に表せない「豊かさ」があります。授業が終わっても、卒業しても、ずっと繋がり続け、様々な場面で支え合える未来の友人たちに出会えることを今年も楽しみにしています。

<学生が期待できる学び>

- ・人は自然に生かされていること、人は助け合って生きていることを身体と心で理解できる。
- ・持続可能とは何かを考える機会を持ち、自分にできることを始めるきっかけとなる。
- ・私たちの命を支える「食」のリアルを知ることができる。
- ・多様な価値観に触れ、自分と社会の違う側面を見ることができる。

<活動紹介>



◆持続可能で多様な「食」をつくる農家と活動する

- ・鶏の餌やりや卵拾い、鶏小屋づくりのお手伝い
- ・稲刈りやうど小屋づくりのお手伝い
- ・野菜の収穫や土づくりのお手伝い
- ・持続可能な食を意識したみんなで作るお昼ご飯会をする。



◆学生が中心となりイベントを企画する(過去イベント事例)

- ・ガチすぎるBBQ

鶏を絞め、野菜を収穫し、火を起こすところからするBBQ

- ・竹で滑り台づくり、竹水鉄砲大会

竹を切り出し、滑り台をつくったり、水鉄砲をつくりチームに分かれて戦うイベント

- ・おすそわけ食堂

学生が農作業をお手伝いし、お裾分けしてもらった食材を使って、にんげん小屋で調理をし、地域で活動するプレイヤーと交流



◆にんげん小屋のイベントに参加する(過去イベント事例)

- ・雑草かふえ

専門家の力を借りて、食べられる雑草で料理を作って食べる。

- ・ごみについて考える

産廃の専門家に、ゴミの裏側を聞き、ゴミの活用を考える。

- ・作り置きのかい

地域の農産物や乾物を使って、作り置きをみんなでつくる。